

麻布地域の人々が取材 編集する地域情報紙



麻布の **みどり** を探して⑤ 六本木一丁目界隈の桜並木

ひとけの少ない早朝に歩くのも爽やか。

六本木一丁目の泉ガーデンからアークヒルズ周辺には、春になるとそれは見事な桜のトンネルが出現する。麻布の名所の一つともいえるこの桜並木を、詳しくガイドしてみたい。



① 泉通りの終わり、左に進むとスペイン坂、右は桜坂。

② 淡いピンク色の清楚な印象のソメイヨシノ。

③ 「泉はし」の上からレジデンスを背に見るヨウコウは、ソメイヨシノよりも早く咲き、花は大輪で鮮やかなピンク色になるのが特徴。

麻布通りを谷町JCT方面に向かい「六本木麻布通り」の信号を右折、最初の左角が泉ガーデンの始まりだ。通称「泉通り」は、なだらかにカーブする350mほどのメインストリート。その先のアークヒルズをはさみスペイン坂と桜坂まで含めた全長1kmの沿道には、220本のソメイヨシノが配され、いっせいに開花すると美しくもダイナミックな桜並木となる。泉通り側の桜の樹は、2002年の再開発から17年経ち、スペイン坂、桜坂のそれと比べると幹はやや細いものの枝ぶりは遜色ない。沿道のどこからも梢ごしに、最先端のデザインによる高層ビル群が見上げられる。麻布にあってまさに都市と自然の共生、不思議なコラボレーションをなし、だれもが新鮮な印象を受けるだろう。

そして夜のライトアップの光景もまた、あらためて見ていただきたい。アップライトの効果で花が暗闇に浮かび天空へと広がるイメージで、実に幻想的だ。この時期だけは、遅くまでそぞろ歩きをする人たちにぎわいを見せる。

新しい見どころはさらにある。泉通りの途中に架かる歩道橋、「泉はし」に上ると、その先に住友財閥の迎賓館だった会館の庭を残した広場があり、6種類もの桜が点在。さらに麻布通りをはさんだ反対側(六本木三丁目)、六本木グランドタワー方面へ。ここは日本IBM本社ビル、六本木プリンスホテルの跡地で、新たに整備された「なだれ坂」では、若木ながらも色鮮やかな桜、ヨウコウ(陽光)の並木道を楽しめる。

それぞれに趣のある界隈を回遊し、ぜひお気に入りのポイントを見つけてほしい*



●取材協力/住友不動産 ビル事業本部 港第二事業所 ビル所長 田中千広さん

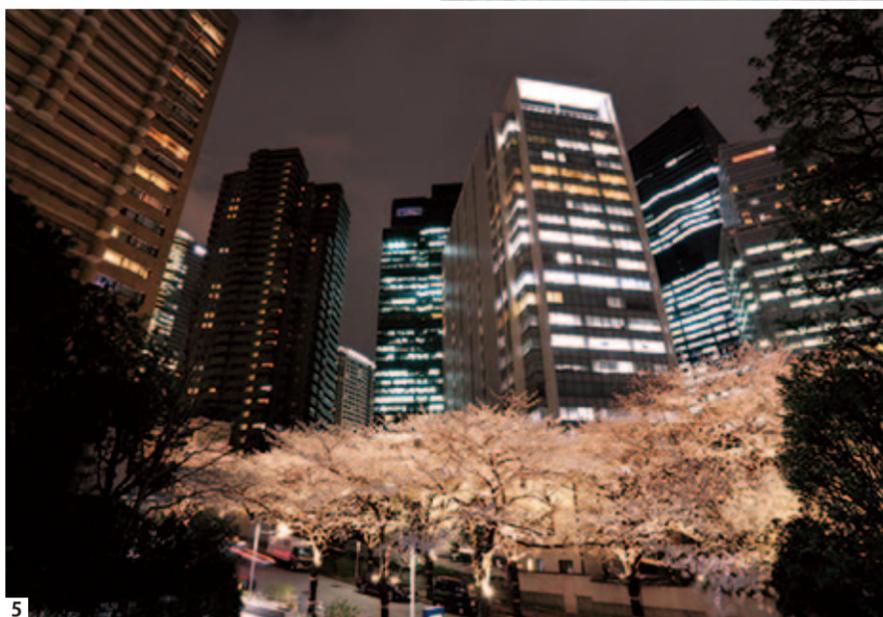
○写真は2018年3月に撮影

○ライトアップ期間:平成31年3月下旬から4月中旬頃 各日:17時~22時を予定(開花状況に応じて実施)



④⑤ この時期だけ現われる、ライトアップされた幻想的な夜の景観。⑤はスペイン坂下から泉ガーデン方向。

⑥ なだれ坂の若木の桜の成長も楽しみ。写真提供/住友不動産・2017年撮影





久國神社宮司
鈴木つね子さん (85)

＊久國神社の由緒＊

「勤請年月不詳ながら、古くはもと千代田村紅葉(現皇居内)に鎮座されていたという。長祿元年(1457)太田道灌江戸城築城につき、寛正6年(1465)溜池に城隍の鎮守として遷座され、後に久国作の刀が寄進されたので久國稲荷神社と称するようになった。永祿3年(1560)その地が公用に属したため、寛保元年(1741)に当所に遷座され、昭和20年10月25日より久國神社と称するようになった。」(東京都神社名鑑より)

生まれも育ちも麻布谷町*。裏も表もない、江戸っ子堅気の鈴木つね子さんは、過去を振り返ることはあまり好きではない、という。しかしここでは、麻布の歴史をよく知る住民のひとりとして85年の半生を振り返って頂き、生涯でもっとも影響を受けた出来事やこれまでの生き方、未来に残していきたい街の風景などについて、お話を伺った。*現・六本木二丁目

九死に一生、天災と人災

鈴木さんには、生死を分けた2つの原体験がある。今もすらすらと、その正確な日付が口をつくほどの衝撃だ。

ひとつは、昭和13(1938)年6月30日。台風の影響で3日間雨が降り続き、さらに豪雨にみまわれた夜中の2時頃。鈴木さんの生家である久國神社の真上に位置する三井邸(現・米国大使館宿舍)の高さ25mの崖がとつぜん崩れ、28戸の民家をのみ込み、約50人が生き埋めとなった。まだ4歳だった鈴木さんも、はっきりと覚えている。「ここで寝ていた時ですけれども、「助けてくれえ〜!」という男の方の悲鳴を聞いているんです。一家全滅の方もいらして、23名が亡くなりました。」救助活動は歩兵第一連隊をはじめ、警察や消防、青年団など地域一丸となって不眠不休で行なわれたというが、奇跡的にも崖崩れは母屋の向こうで起こり、鈴木さんたちは間一髪で助かっていた。「今の壁は、三井さんがお金を惜しむことなくしっかりと整備してくださって、もう80年もたつて苔むしてききましたが、地震が来たってびくともいたしません」と壁を見上げる。

もうひとつは、昭和20(1945)年5月25日。空襲の日。当時、麻布小学校の6年生だった鈴木さんは、栃木県の山の中にいた。「昭和7年くらいからの御生まれと13年までの方は疎開をご経験されていますでしょ。親類縁者をたよる縁故疎開と、疎開先がない人の集団疎開。わたくしは田舎がございませぬから、集団疎開でした。4つちがいの妹はまだ小さかったので両親とここに残り、火の中をくぐって逃げました。家も神社も丸焼けです。(栃木の山からみる東京の空は)赤く、見えましたね。」鈴木さんは翌年3月、家族と再会。ここでも一家全員、無事だった。



香淳皇后様から頂いた花瓶。高松宮様から頂いたオルゴールは、蓋を開けると『海行かば』が流れる。万葉集(大伴家持)の歌にチェロ奏者・信時潔がメロディをつけたもの。戦中・戦後、鎮魂歌として広く国民に親しまれたため、軍歌にしたがる人もいる。

出逢いは皇居、職場結婚

中学・高校の6年間は赤坂にある山脇学園に通った鈴木さん。卒業後は縁あって宮内庁に就職した。「香気で勉強などしない人間なのに、たまたま好きだった歌、源実朝のことが採用試験に出まして。正岡子規だったかしら。「人丸の後の歌よみは誰かあらん 征夷大將軍 みなもとの実朝」ってね。わたくし、運がいいの!」宮内庁には秘書課の任用係として入ったが、9か月ほどで天皇皇后両陛下と天皇家(の未婚の皇子女)のお身近のことを担当する侍従職に抜擢された。「御歌所寄人¹を務められた鳥野幸次²先生が毎週のように来られて、そこへ甘露寺受長³さんが茶道具一式もって遊びにいらして、わたくしがお抹茶を立てて差し上げたりもしました。それから、歌会始の添削に尾上柴舟⁴さんがお見えになることもありました。」侍従職は4年ほど勤め、同じ職場で知り合った鈴木豊さんと結婚。寿退職した。

- 1 明治21(1888)年～昭和21(1946)年まであった宮内省の部局。天皇家ならびに皇族方の和歌と歌会始の選定などを行う人。
- 2 丸岡藩の藤原朝臣・鳥野連母の次男で、大正12(1923)年、御歌所寄人を受命。昭和19(1944)年、皇后陛下と歌会「奥の研究会」を発足。
- 3 東宮侍従・侍従次長、明治神宮宮司などを務める。
- 4 日本の詩人、歌人、書家、国文学者。昭和24(1949)年より、歌会始の選者を受命。

勝海舟、直筆の書。



共に支え合うこと60年。ご主人の鈴木豊さん(87)と。



(左) 港七福神の一社(布袋尊)として、港区観光協会にも貢献している久國神社。現在、広場になっている場所には神楽殿があった。舞台中央の松は、京都生まれの日本画家・村上泰山が描いたもの。
(右) 写真中央の少女は、鈴木さん。前列左から3人目に父・石川忠治郎さん。床の間の掛け軸は、東郷平八郎 直筆の書。

女宮司、45歳で誕生

久國神社の宮司だった父・石川忠治郎さんが病に倒れたのは、鈴木さんが45歳の時。跡を継ぐため国学院大学へ通い、猛勉強したという。宮司と言えば、とかく男性社会という気がするが。「ええ、そうですよ。神社庁で協議員を拝命したことがありますが、会議がございませぬ。男性の中で女ひとり。なんだ、お前か! って顔で見られて。何い、負けるもんか! ってね」と頼もしい。「宮司の職務としての大変さですか? それは、痛感したことはございませぬ。神様にお仕えするというのは、自分の心が正しくないといけません。誠実さが一番大事です。まじめに生きていれば大丈夫なんですから。怖いものなどございませぬ。女で宮司などしておりますけれども、主人が宮内庁を辞めてからはサポートしてくれているので、わたくしはこうして生かされているんです」と鈴木さんの生き方は、清々しい。

心が帰る場所、みんなの原風景

夫である豊さんの一日は毎朝4時、清掃から始まる。そのため、出勤前のビジネスマンたちが参拝に立ち寄る際には、境内は葉っぱ一枚おちていない爽やかな空気に包まれている。また、昨年5月からは地元企業に頼まれ、保育園のちびっこたちが土いじりの体験ができる「ミニ菜園」として敷地の一部も提供している。去年はすくすくと大きく育った茄子やピーマン、カブを収穫。来月は、ジャガイモを植える予定になっている。「何百年も続いた土地ですからね。貧乏でも贅沢しなければここに住めます。この町で生まれ育った方は再開発で引越して、たまに「懐かしい」と遊びに寄って下さる方もいます。ですから、高層ビルなどにして自然を壊したくないんです。銀行にお勤めされていた方はお昼休みにここへ来て、鳥とか虫

を観察して一冊の本になさいました。スケッチして立派な絵にして下さる方もいるんですよ。」この風景に癒される人、創作意欲を掻き立てられる人は、きっとこれからも後を絶たないだろう。そう感じさせる、麻布びとだった。

(上) 鈴木さんのお気に入り、山田松鶴の書。本名、山田實。麻布小学校の校長も務め、鶴心書道会を設立した書家である。

(下) 「横浜出身の父は29歳で神主を志し、神社庁の庁長をしていた吉田光長さんのもと、西久保八幡神社で10年間修行した後、こちらを任せられました。母・はつのはつのはつは太田道灌の家来で、氏族の雰囲気をもった気位の高い人でした。新宿で青春時代を過ごし、都立家政をでて、明治神宮に宝物殿が出来た時、お勤めしました。そこで神主さん同士のご紹介をうけて結婚しました。苦勞人の父は家族のことは二の次、三の次。神社のためなら、アガなし、コネなしでも、著名な方を訪ね、ご協力を仰いでいました。」この青い手帖には、川原幸雄・元港区長をはじめ、平岩弓枝や薄保など、様々な分野の方が書や絵を寄せている。



焼け野原となった麻布谷町一帯。©関根謙吉



昭和20年末、路面電車復活の風景。©関根謙吉

(取材/小池澄枝、堀内實三 文/小池澄枝)



地産地消のトートバッグが好評です

麻布十番商店街振興組合発・フラッグ再生物語

麻布十番商店街を歩いていると街路灯に掛けられた旗が次々と目に入ります。お祭りや恒例の市・記念日など、街の年中行事を楽しく伝えてくれる宣伝フラッグです。ところで、掲出期間終了後には「フラッグがトートバッグへ再生されているらしい」とのこと。そこで麻布十番商店街振興組合理事長の庄司光敬さん他関係者の方々にお話をうかがい経緯をまとめてみました。



元々は宣伝フラッグ。

障害者福祉+商店街+ECOの共存を志して

麻布十番商店街振興組合では、宣伝装飾の役割を終えたフラッグを廃棄処分することに関し、ECOの精神からもったいないと考えていたそうです。年間を通じてイベントの多いこの商店街では、およそ1カ月毎に105枚のフラッグが交換されるため、年間で千数百枚のフラッグが使われます。

そこで、フラッグを廃棄せずにトートバッグへ再生させるというアイデアが出されました。遠くから人目をひくデザインで生地も丈夫なため、魅力的なトートバッグに生まれ変わる可能性を秘めているというわけです。

また、地元の就労継続支援事業所で再生作業を行うこと、港区内で販売・活用することで地域振興にもつながるのでは、という構想も出されました。しかもこのような地産地消の取り組みは麻布十番商店街に限らず、他の商店街や自治体でも実現可能です。一過性の宣伝装飾物は色々な場面で使用されるためです。そこで港区の障害者福祉課に事業提案してみたところ、「まずは麻布十番商店街から、是非チャレンジしてみてください」という流れになりました。さっそくNPO法人みなと障がい者福祉事業団を通じ、麻布十番商店街振興組合が区内にある何カ所かの就労支援事業所に作業を発注したところ、共同受注に至りました。2017年初夏のことでした。

当初、再生されたトートバッグは商店街のイベント会場や障害者の方々働く区内の福祉売店で販売されていました。やがて商店街加盟の7店舗でも販売されるようになりました*。

*フラッグ・バッグの発売・取扱店等の情報は麻布十番商店街公式サイト <http://www.azabujuban.or.jp> で確認できます。



麻布十番商店街振興組合理事長の庄司光敬さん。

もっと輪を広げたい

初めて見た時、庄司理事長は「これで売れるのかな、という気がしないでもなかった」そうです。しかし実際は奥様もすっかり愛用者のお一人となり、遠方の人への贈り物としても喜ばれるということです。販売の第一線ではもっと仕入れたい、販売店の数も増やしたいという声が出ているそうです。宣伝の役割を終えたはずのフラッグが、姿を変えて再び商店街のPRに一役買っているというわけです。一方、再生事業の宿命なのですがトートバッグはフラッグの総数105枚分しか作れません。だからこそ、庄司理事長は麻布十番商店街内だけのムーブメントにとどまらずにフラッグ→バッグ再生の輪がもっと広がっていくことを希望されています。



2018年12月1日、武井区長から表彰された時の庄司さん。



イラストレーターの平大路知子さん。「麻子とト」という女の子と猫をモチーフにした商店街の宣伝デザイン全般を担当。「最初には不思議な感じもしましたが、自分の描いたものがグッズになったのは初めてだったのでうれしかったです。とてもいい取り組みだと思います」

生産現場を訪問

実際に再生作業の現場におじゃましました。今回訪れたのはアトリエ・レダクラフト(麻布十番4丁目)の工房です。障害のある方々が職人を目指して技術を身につけ仕事を行うための工房だということです。

デザインのポイントは明快です。フラッグの布を無駄なく使い切ることなので、自ずとシンプルなものになります。直線裁ちされたフラッグは手早くミシンにかけられてトートバッグへと再生されます。きちんと検針まで済ませてから出荷されます。

今後の展開にも期待します

さる2018年12月1日、第37回障害者週間記念事業「ともに生きるみんなの集い」会場(男女平等参画センターリーブラホール)で武井雅昭港区長より庄司理事長に感謝状が贈呈されました。麻布十番商店街振興組合によるトートバッグ再生作業の発注が、障害のある方々の工賃アップに寄与したことが評価されたためです。「障害者福祉+商店街振興+エコフレンドリー」、3つの軸足を持つユニークなこの事業の今後の展開がとても気になります。



過去に発売されたデザインの数々。



清掃し、



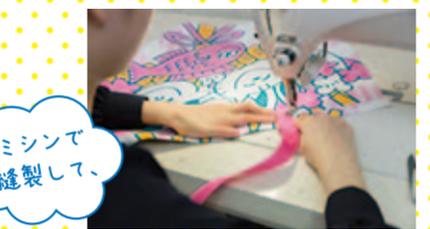
旗の軸を抜き、



線を引いて、



裁断して、



ミシンで縫製して、



完成。



基本的に毎月第2土曜日発売です。

取材協力 麻布十番商店街振興組合 一般社団法人レダクラフト

(取材/大村公美子、佐伯舞、高柳由紀子 文/大村公美子)

麻布には道標もなければ、ともすると名前もないような坂が実はたくさんある。

今回の阿衡坂には道標がない。古地図にも坂に関する正確な記載がほとんどない。にもかかわらず文献には坂名が残っていることが大きな特徴だ。その由来も他とは些か異なる。そんな特徴に心惹かれ、未知な風景にフォーカスするのも一興とばかりに出かけてみた。

坂名の由来

「阿衡」とは「摂政・関白」の異称(官職名)で、この坂の由来は徳川将軍家2代にわたって補佐として辣腕を揮った、まさに「摂政」に相当する活躍をした人物を指してその坂名としている。例えば「水戸黄門」で有名な徳川光圀も「黄門」は官職名で、これは本人を指す事例。坂名が官職名を冠することは実は意外と珍しい。

坂名の由来となった人物は保科正之という。三代将軍 徳川家光の異母弟であり、後に江戸初期の三名君のひとりとして讃えられる。

明暦の大火

正之はその出自から数奇な運命を辿るが、謹直な性格と卓越した内政手腕を家光は重用した。慶安4(1651)年、家光は死に臨んで正之に「(徳川)宗家を頼みおく」と遺言するほどだった。明暦3(1657)年に起きた「明暦の大火」と呼ばれる江戸時代最大の火災に際しては、その後の復興に手腕を余すことなく発揮。焼け落ちた江戸城天守閣の再建よりも焼け出された庶民救済を優先することを建言。江戸城下の災害対策に尽力した。

余談ではあるが、その後江戸城天守閣が再建されることはなかった。また、家光の遺言に感銘を受けた正之は寛文8(1668)年に「会津家訓十五箇条」を定めた。幕末に佐幕派の中心的存在となる会津藩藩主・松平容保はこの家訓を忠実に守り、最後まで薩長軍に抗戦した。つまり、正之は会津松平家の家祖でもある。幕府より松平姓を許されながら、養育してくれた保科家への恩義を忘れず生涯保科姓を通した。彼の「謹直」は幕末まで受け継がれたのである。



2019(平成31)年 阿衡坂中腹。右側は本村幼稚園の門



阿衡坂周辺は南麻布丘陵地の中腹にあたり、それ故に坂が多く入り組む地形。現在もなお閑静な佇まいを保っている。



2019(平成31)年 阿衡坂上。右側に見えるのは本村小学校

麻布 未来写真館 阿衡坂

道標無き謹直な坂

静寂の今

正之の性格を表すようにこの坂は静かな佇まいを見せる。現在の南麻布3丁目、遍照寺(本村公園脇)と稱念寺の間の坂を下りて西に上る坂である。坂下正面向かって右側に「有栖川清水(旧麻布プリンスホテル)」や「フィンランド大使館」、左側に「本村幼稚園」と「本村小学校」がある。この周辺はかつて麻布白金御殿があり、保科(肥後守)正之の下屋敷があった場所なのだ。会津坂でも保科坂でもなく「阿衡坂」。彼が当時からいかに庶民に慕われていたかがうかがえる何よりの証ではないだろうか。幼稚園や小学校の子ども達の通学路でもある現在の姿が、何とはなしに往時の名君の面影を偲ばせる。麻布の静寂に謹直なる歴史あり。



1975(昭和50)年 麻布本村公園脇を西に下る坂
撮影:田口正典氏、提供:田口重久氏



2019(平成31)年 阿衡坂下。周囲は「名もなき坂」だらけ。手前の坂とうってかわってなだらかな傾斜の坂 写真撮影:おおばまりか

●参考文献 ●
横関英一 著 続江戸の坂東京の坂(中公文庫 1982)
『増補港区近代沿革図集 麻布・六本木』(港区立郷土歴史館)

「麻布未来写真館」とは

港区麻布地区総合支所では、地域への共感や愛着を深めていただくため、麻布地区の歴史やまちの移り変わりを記録、保存、継承する活動を行っています。

麻布地区の定点写真の撮影、昔の写真の収集等については、港区在住、在勤、在学者で構成された区民参画組織「麻布を語る会 麻布未来写真館分科会」が主体となって活動しています。まちの歴史や文化を多くの方々を知っていただけるよう収集した写真をパネルとして港区ホームページや展示会で紹介していますのでぜひご覧ください。

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています!

明治から昭和にかけての麻布地区の建物や風景、お祭りなどの写真を募集しています。詳しくは、港区麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当までご連絡ください。

お問合せ 電話:03-5114-8812



撮影・有田泰而氏

麻布の軌跡

演劇人 寺山修司の残像

昨年(2018年)は寺山修司(1935~1983)の没後35年であった。1983年5月4日に47歳でその生涯を閉じた彼は、1967年に結成された演劇実験室 天井桟敷を主催した。1976年には並木橋の渋谷 天井桟敷館を閉館し新たに元麻布に開館する。麻布十番大通りを六本木方面へ向かい暗闇坂下を過ぎた左手にその館があった。元麻布3-12-42。この地で過ごした彼の最後の7年間を中心に追っていく。

i あまりに前衛的な

著作数が数百をこえる作家を思いつくだろうか。寺山修司はまさにその一人である。1935年12月10日青森県に生まれた彼は、中学生の頃から作句を始める。1951年青森高校時代に短歌雑誌『青蛾』を発行する。公的なデビューは18歳だった1954年に、短歌研究 第2回50首応募作品特選となったことである。その後、早稲田大学教育学部国語国文学科一年生の冬から混合性腎臓炎、ネフローゼを患い数年間の入院生活を余儀なくされる。その間1957年作品集『われに五月を』を刊行する。この頃谷川俊太郎と出会いラジオドラマを書き始める。1960年大学を中退。戯曲『血は立ったまま眠っている』を『文学界』に発表し劇団四季により上演される。土方巽、黛敏郎(6人のアヴァンギャルドの会)たちと作品を上演し本格的に演劇活動が始まる。

1967年演劇実験室 天井桟敷を横尾忠則、東由多加とともに設立する。後にJ・A・シーザー、小竹信節らが加わる。旗揚げ公演として『青森県のせむし男』を上演し『大山デブコの犯罪』『毛皮のマリー』等で民衆の『見世物の復権』^{注1}を掲げる。1968年には海外からの招待を受け、アメリカ前衛劇事情を視察している。1969年にはイスラエルへ、同年ドイツのエッセン市立劇場の招待により『毛皮のマリー』演出のため美術の宇野亜喜良氏とともに渡独。演劇理論誌『地下演劇』を編集、創刊。海外の演劇理論を紹介している。

1970年代に入ると国内では市街劇を展開する一方で、どこの劇団よりも先駆けて海外公演を行う。1971年フランスのナンシー演劇祭委員に就任。『邪宗門』、市街劇『人力飛行機ソロモン』を上演する。1972年西ドイツのミュンヘンオリンピック組織委員会主催芸術祭に招かれ野外劇『走れメロス』を公演。ヨーロッパの他の都市デンマークやオランダ各都市の巡演も行われ、海外での人気を獲得していく。

一方、国内では1970年代に始まった市街劇がスキャンダルを巻き起こす。1975年杉並区で30時間市街劇『ノック』を公演、警察が介入し騒ぎとなる。彼の創作活動は、俳句、短歌、現代詩に始まり、ありとあらゆるジャンルに及んでいる。とりわけ重要なのは演劇であることはいまでもない。見世物の復権を唱えた演劇は演劇形式そのものの革命であった。つまり、市街劇、またその一部である書簡劇、戸別訪問演劇で人々を従来の劇場という空間で起こる関係から解放し、あらゆる場所を劇場へと変えていったのである。こうして彼の芸術活動は、あまりに前衛的に外へ外へと拡散していくのであるが、それと同時に世界で評価されはじめた彼の演劇は、やがて麻布の地で結実していくのである。

ii 麻布時代—1976~1983—

1976年麻布天井桟敷館での活動が始まる。前年よりオランダ、西ドイツ等各都市で『疫病流行記』を公演。改訂版が東京でも上演される。続いて『阿呆船』が東京、イランで上演(イランでは以前ペルセポリス芸術祭にアジアで唯一招待された経緯がある)。同年、演劇論の定本というべき論集『迷路と死海』を白水社より刊行する。彼はこの著書で「観客、俳優、劇場、戯曲という演劇がもつすべての要素をつくりかえることにある」とし、現実と虚構との間を取り除き「何が現実で何が虚構かわからぬ」位置に演劇を置くことを論じた。つまり実際に彼がつくりだした、市街劇、戸別訪問演劇、書簡劇によって、それは人々の前に放たれたのである。

1978年に上演された『奴婢訓』は1982年のパリ公演までの4年間、オランダ アムステルダムを皮切りにヨーロッパ各都市を巡演する。ロンドンのリバーサイドスタジオでの上演に「グロトフスキーの発見以来、最も見事な外国劇団との出会い」と『タイムズ』は絶賛している。

1979年にはイタリアスポレート芸術祭に参加する。フィレンツェ、アスティ、他の各都市を巡演する。「彼らは脚光を浴びに舞台へ現れない(カーテンコールを行わない)」と『ウニタ』は評している。

続いて1980年スポレート・フェスティバル・アメリカの招待によりサウスキャロライナで『奴婢訓』を上演。その後ニューヨークのラ・ママ劇場でも上演を果たす。『奴婢訓』においてヴィレジジャーの1980年度最優秀外国演劇賞を受賞する。

1982年日本での彼の最後の舞台は、紀伊國屋ホール『レミング 壁抜け男』の演出であったが、海外公演の最後は、フランス パリシャイヨー国立劇場ジェミニ小劇場にての『奴婢訓』上演となった。彼の舞台は好演出により、フランス国内の主要紙『ル・モンド』の1面と、文化面に掲載され高い評価を得た。

1970年代後半の活動は、そのほとんどが演劇においては海外公演に集約されたといっていだろう。つまりそれは『疫病流行記』『阿呆船』『奴婢訓』といった彼の舞台の完成作品を世界が評価した所以である。

iii 麻布時代—倒錯するイメージ—

1970年代後半に世界を驚かせた彼の舞台作品の中でとりわけヨーロッパ各国で評価を得たのは『奴婢訓』であった。

この作品は、ジョナサン・スウィフト^{注2} 原作による未刊の手稿『奴婢訓』を、彼が独自に翻案したものである。この舞台は彼の演劇論で展開された密室劇にあたる。『奴婢訓』は、人々を劇場の外へ解放した市街劇とは相反し、今度は文字通り観客を密室へ閉じこめたのである。

そこで展開される舞台は、主人不在の屋敷において奴婢たちが代わる代わる主人になる遊びにふける。こうして一人の主人を限定することができないまま密室での劇は続く。やがてそこでは実態なき主人(力)が想像上のものとして人々を管理していることに気付かされる。彼は「主人の不在が悲劇ではなく、主人を必要とすることが悲劇だ」と暗示し、この二律背反こそまぎれもない現代社会のもつ不安だと自解している。

彼と仕事をともにし、今もなお文芸界を第一線で活躍されている文芸評論家(舞踏評論家)の三浦雅士^{注3}は、『奴婢訓』は「はっきりと造形空間を意識した作品」と高評価し、舞台芸術の局面からこう語る。「1960年代アメリカで起こったパフォーマンスアーツを、寺山は横目で見ながら、これらの壊滅的な状態を上手に反転させたモーリス・ベジャールとピナ・バウシュに自分の持っている演劇性(人間存在のあやうさ)を見据えていたといっていだろう」と。

つまり彼の舞台では言葉が(台詞ではなく)音として断片化し言語抜きで(Butoh)作品として展開され、言葉の問題をはっきりと打ち出していたことに他ならない。

こうして16年間の彼の興した、実験的な演劇活動は国外では多くの観客を魅了したにもかかわらず、あまりに前衛的であったため同時代人々の前を瞬間に駆け抜けていったのである。

iv 寺山修司の残像

この言葉をあらゆるジャンルを卓越した彼の独創性^{注4}の嚆矢としてとどめておきたい。

独創力とは、思慮深い模倣以外の何ものでもない

—ヴォルテール「格言集」—^{注4}

リアルタイムで寺山修司を知らない拙著たちの世代が彼の言葉に感動している。彼の演劇を、今、実際にみることは出来ない。だがしかし彼は新しい知の形態として、あらゆるジャンルを越えわれわれに多くの言葉を残していったのである。

(謝辞) 昨年(2018年)秋、県立神奈川近代文学館で没後35年の特別展「寺山修司展 ひとりぼっちのあなたに」が開催された。こちらの編集委員をつとめられた三浦雅士氏に単独インタビューに応じていただき心より感謝の気持ちを表したい。付け加えていただくと、三浦先生とは学生時代の恩師との再会となった。「万巻の書を読み自己のパロールを語れ」との教えに導かれ麻布時代の寺山修司を纏めるにいたった。また多くの文献のなか『ラカンで読む寺山修司の世界』の野島直子氏の精神分析理論を文化研究に援用し論じられた書は学術性の高い秀逸な研究書と感銘を受けた。

注1 見世物の復権：「民衆の見世物小屋」は大正13年築地小劇場が新劇の出発点として掲げた。その後、近代演劇への道を歩んだ新劇に対する反復を提唱した。

注2 ジョナサン・スウィフト：(1667~1745)『ガリヴァー旅行記』の著書で有名なスウィフトは風刺作家として名高い。『奴婢訓』もその内のひとつである。1738年、出版の為に完成させようとしたが未刊に終わり1745年ようやく印刷された。

注3 三浦雅士：青森県出身。『ユリイカ』現代思想の編集長を歴任。1984年『メランコリーの水脈』(サントリー学芸賞)。コロンビア大学客員研究員を経て『ダンスマガジン』編集長を務める。2002年『青春の終焉』(芸術選奨文部科学大臣賞、伊藤整文学賞)。2010年紫綬褒章受章。2012年日本芸術院賞、恩賜賞。寺山関連の著書に「私という現象」(冬樹社 1981)『寺山修司鏡のなかの言葉』(新書館 1987)がある。

注4 ヴォルテール：18世紀フランスの哲学者。著書に『哲学辞典』『哲学書簡』ピカレスク小説『カンティード』など多数。

※参考にした作品のテキストは下記のものを使用した。

●参考文献

寺山修司
『寺山修司戯曲集1 初期一幕劇篇』(劇書房 1982)
『寺山修司戯曲集3 幻想劇篇』(劇書房 1983)
『寺山修司演劇論集』(国文社 1983)
『ちくま日本文学全集』(筑摩書房 1991)
『寺山修司コレクション1-3』(思想社 1992-1993)
『新文芸読本 寺山修司』(河出書房新社 1993)
『寺山修司著作集1-5』(クインテッセンス出版 2009)
『寺山修司短歌論集』(国文社 2009)
『帰ってきた寺山修司 図録』(世田谷文学館 2013)
『秋たちぬ 寺山修司未発表詩集』(岩波書店 2014)

三浦雅士『寺山修司 鏡のなかの言葉』(新書館 1987)
市川浩 他『寺山修司の宇宙』(新書館 1992)
栗坪良樹 編『新潮日本文学アルバム 56』(新潮社 1993)
野島直子『ラカンで読む寺山修司の世界』(トランスビュー 2007)
神奈川文学振興会 編『寺山修司展 ひとりぼっちのあなたに』(県立神奈川近代文学館 2018)
日本住宅地図出版(株) 編『港区』(日本住宅地図出版 1978) 29頁

Davis, Herbert John, Ehrenpreis, Irvin & Landa, Louis A, *The Prose Works of Jonathan Swift*, Oxford, Basil Blackwell, 1964
Irving Wardle, Directions to Servants, *The Times*, 12 Apr. 1978, p11.
Aggeo Savioli, Un inferno domestico, *l'Unità*, 8 luglio 1979, p9.
Colette Godard, La question du maître, *Le Monde*, 26 octobre 1982, p1,20.



元麻布 天井桟敷館外観。渋谷と同様に1階に喫茶、奥が稽古場となっていた。

AIチャットを使って、生活情報を案内します

区では、AIチャットを使って、外国人向けに生活情報を案内するサービスを新しく始めました。利用する人がAIに質問をすると、AIは自動的に、適切なFAQの内容を教えてください。

質問できる内容は、「防災」「ごみのきまり」「港区がやっている学校」「子育てのこと」「国際／文化のこと」「医療／病院のこと」「税金・保険・年金などの手続き」「観光のこと」「町会のこと」です。

利用者がたくさん質問するほど、AIはいろいろなことを勉強して、賢くなります。最初は答えられなかった質問でも、しばらくしたら答えられるかもしれません。みなさん、どんどん質問してください。

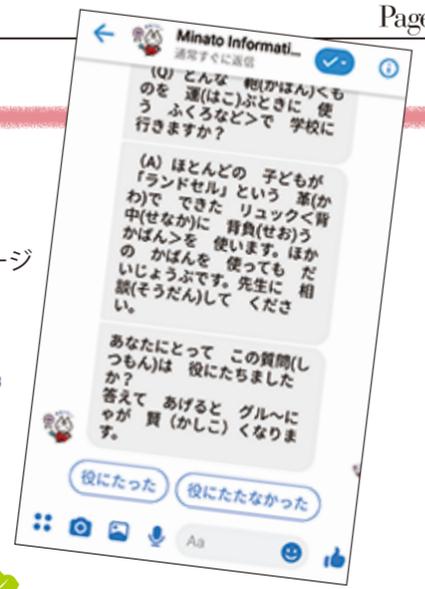
言語 英語、やさしい日本語

利用方法 “Minato Information Board”からメッセージを送って、AIに質問してください。

URL: <https://m.facebook.com/city.minato.mib/>



お問合せ／港区地域振興課国際化推進係
電話／03-3578-2565



ご近所情報満載！地域SNSアプリ「PIAZZA」で、暮らしに役立つ「つながり」を育もう！

麻布・六本木エリアで展開中！
PIAZZAで麻布での暮らしがもっと楽しくなる



PIAZZAとは、イタリア語で「広場」という意味で、身近なイベントや日常の暮らしに関する情報交換、不用品のやり取りなどを通じて、地域密着型のコミュニケーションを促進するためのアプリです。

現在、昨年7月からオープン(※)した「PIAZZA麻布・六本木エリア」には、1,000人以上が登録し、「お祭りを開催します」「ベビーカーをお譲りします」といった、麻布地区を中心とした暮らしに役立つ地域情報が集まっています！防犯・防災、子育て等の行政の情報も適宜投稿されますので、「引越してきたばかりなので地域の事をもっと知りたい」「子育て仲間がほしい」、そんな方はぜひ一度「PIAZZA」をお試しください。

※平成30年7月12日に港区、港区麻布町会・自治会連合会、「PIAZZA」を運営するPIAZZA株式会社で協定を締結し、「PIAZZA」内に「麻布・六本木エリア」を開設

あなたの情報が誰かの役に立ちます！
麻布を楽しみたい人はぜひご登録ください。

登録方法

- STEP① PIAZZAアプリをダウンロード
- STEP② メールアドレスかFacebookアカウントで登録
- STEP③ 名前や出身地などを入力



アプリはこちらからダウンロードしてください

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話／03-5114-8802

平成31年度 港区民交通傷害保険のご案内

現在、港区民交通傷害保険の募集を行っています。

港区民交通傷害保険は、少額の保険料でご加入でき、車両による交通事故によりケガをされた場合に、保険金をお支払いする港区在住者向けの保険制度です。

- 加入対象者 平成31年4月1日時点で港区に住所がある方
- 対象保険期間 平成31年4月1日午前0時～平成32年3月31日午後12時
- 加入申込期間 平成31年2月1日(金)～平成31年3月29日(金)

※金融機関での申込みは3月22日(金)までです。申込期間外の加入はできません。

コース	補償内容	最高保険金額	年間保険料
A	区民交通傷害Aコース	150万円	1,000円(※改定なし)
B	区民交通傷害Bコース	350万円	1,700円(※改定なし)
C	区民交通傷害Cコース	600万円	2,900円(※改定なし)
AJ	区民交通傷害Aコース +自転車賠償プラン	150万円(交通傷害) +1億円(自転車賠償)	1,400円(※改定なし)
BJ	区民交通傷害Bコース +自転車賠償プラン	350万円(交通傷害) +1億円(自転車賠償)	2,100円(※改定なし)
CJ	区民交通傷害Cコース +自転車賠償プラン	600万円(交通傷害) +1億円(自転車賠償)	3,300円(※改定なし)

このご案内は、概要を説明したものです。詳しい内容については ※…従来保険料
損保ジャパン日本興亜までお問い合わせください。

引受保険会社

損害保険ジャパン日本興亜株式会社東京公務開発部営業開発課
東京都新宿区西新宿1-26-1
電話／03-3349-9666(平日の午前9時から午後5時まで)

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係 電話／03-5114-8802

SJNK18-12371 平成30年12月22日作成

麻布地区 地域事業

【麻布地区地域サロン事業】

“ちょこっと立ち寄りカフェ”にお越しください

麻布地区総合支所では、地域の高齢者の皆さんが気軽に立ち寄って楽しく交流できる場所として、「ちょこっと立ち寄りカフェ」を開催しています。どなたでも気楽な雰囲気でお茶やコーヒーを飲みながら、おしゃべりや季節のイベントなどを楽しんでいただけます。毎月、麻布地区のいきいきプラザ4館で開催しています。ぜひ、ちょこっと立ち寄ってみてください。地域のボランティアも皆さんのお越しをお待ちしています。



会場及び内容(予定)

※2月はお休みです。プログラムは変更することがありますのでご了承ください。イベント、講座、ゲームなどを行っています。

◆ 飯倉いきいきプラザ 東麻布2-16-11	◆ 西麻布いきいきプラザ 西麻布2-13-3
4/3 (水) 春のお楽しみ会	4/18 (木) 春を迎えて
5/1 (水) 手作りグッズ	5/16 (木) 手作り
6/5 (水) さわやかレディース	6/20 (木) ゴスペルを聴こう
◆ ありすいきいきプラザ 南麻布4-6-7	◆ 南麻布いきいきプラザ 南麻布1-5-26
4/11 (木) 春のパーティー	4/24 (水) スプリングコンサート
5/9 (木) プラチナ美容室	5/22 (水) ポッチャ体験
6/13 (木) 手作り	6/26 (水) フラダンス

- 時間 毎回午後1時30分から午後3時30分まで
- 対象 どなたでも
- 参加費 100円(茶菓子代含む)
- 申込み 不要です。直接会場にお越しください。

お問合せ／麻布地区総合支所区民課保健福祉係 電話／03-5114-8822

毎月、なにかの楽しみに出会える サロン麻布を開いていますよ

コーヒーとおしゃべりの
ほっこり広場

おかげさまでホット一息できる居場所として多くの方に参加いただいています。また、毎回お出かけのきっかけにと、落語や歌声サロン・健康教室などの多様なミニイベントも同時に開催しています。

どうぞ、お気軽にご参加ください！

- 開催日 毎月第4火曜日
- 時間 14:00～16:00
- 場所 麻布区民協働スペース
(麻布地区総合支所北隣り)
- 開催元 3Aクラブ

クリスマスソング
懐かしの昭和曲
童謡・唱歌(12月)

大好評

お問合せ／090-6152-2781

麻布地区 地域事業

ザ・民謡 スプリングコンサート参加者募集！

～ AZABU WORLD FESTA ～

日本古来の伝統文化として多くの人たちに親しまれ、日本各地で歌い継がれてきた日本民謡。そんな民謡の歴史に触れながら、港区民謡協会のみなさんが美しい音色を奏でます。心に響く日本の音楽と踊りに癒されてみませんか。外国人の参加大歓迎です！(進行及び楽曲の説明については、英語への通訳もあります。)

- 対象 どなたでも
- 日時 3月31日(日)午後3時30分～5時
- 場所 麻布区民センター区民ホール
- 定員 100人 ※保育あり(4か月～就学前、2人。申込時にお申し出ください)
- 申込み 電話で、3月4日(月)～28日(木)に、みなとコール(受付時間：午前9時(初日のみ午後3時)～午後5時)へ。
電話／03-5472-3710

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当 電話／03-5114-8812

港区麻布地区総合支所だより



港区「六本木安全安心憲章推奨事業所等認証制度」平成30年度 推奨事業所等が決定しました



六本木のまちでは、地域と行政が連携し「防犯」「環境美観」「路上喫煙」「道路使用」「営業活動」の5つの課題に対応した地域独自ルール「六本木安全安心憲章」に関わる取り組みを推進しています。

区では、憲章を店舗・事業所等(以下、事業所等)へ普及させていくため、港区「六本木安全安心憲章」推奨事業所等認証制度を実施しています。この制度は、憲章の趣旨に賛同する事業所等を募集し、その中から、積極的かつ主体的に地域活動に取り組む事業所等を推奨事業所等として認証しています。

平成30年度は、賛同された422件(募集時点)の事業所等の中から、3件の事業所等を新規認証し、21件の事業所等を更新認証することに決定しました(表参照)。決定した推奨事業所等には、認証ステッカー(右図参照)を送付します。また、新規認証された事業所等には、認証式で認証状を交付します。



平成30年度 推奨事業所等一覧(五十音順)

新規 / 3事業所

店舗 事業所名	取組内容(概要)
株式会社エムオン・エンタテインメント	<ul style="list-style-type: none"> ●MECCなどの環境活動に加え、港区主催の啓発キャンペーン活動(六本木安全安心プロジェクト)に参加。 ●六本木地域の生活安全活動に常に関心を向け主体的に活動を実施。 ●ポスターやステッカーを掲出し「六本木安全安心憲章」の浸透のための取組を行っている。
天祖神社	<ul style="list-style-type: none"> ●地域主催の清掃活動に加え、港区主催の啓発キャンペーン活動(六本木安全安心プロジェクト)に参加。 ●六本木地域の生活安全活動に常に関心を向け主体的に活動を実施。 ●ポスターやステッカーを掲出し「六本木安全安心憲章」の浸透のための取組を行っている。
株式会社文化工房	<ul style="list-style-type: none"> ●港区主催の啓発キャンペーン活動(六本木安全安心プロジェクト)に参加。 ●社内で割り振り表を作り、毎回の活動に参加。 ●地域活動について社内報を利用して共通認識を持てるよう取り組んでいる。

更新 / 21事業所

店舗 事業所名	店舗 事業所名
(株)天城	学校法人 東洋英和女学院
(株)エグゼクティブプロテクション	フォトショップ銀嶺
王帝商事(株)	(株)誠
グランドハイアット 東京	みずほ銀行 六本木支店
(株)源氏商会	(株)三井住友銀行 六本木支店
(有)下條ビル	三井不動産(株)東京ミッドタウン事業部
食処 竹やん	学校法人 メイ・ウシヤマ学園
(株)拓新	森ビル(株)
(株)立原商店	(有)山田ビルディング
(有)たにぐち	六本木共同ビル(株)
東京ミッドタウンマネジメント(株)	

お問合せ / 〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話 / 03-5114-8802

港区基本計画・麻布地区版計画書に計上する地域事業について

麻布地区総合支所は、地域を取り巻く状況の変化を踏まえ、施策の成果や課題の検証を行い、平成27年3月に策定した「港区基本計画・麻布地区版計画書※」を平成30年3月に見直しました。

このコーナーでは、麻布地区版計画書に計上されている9つの地域事業の内容について、3回に分けてご紹介します。

※計画期間は、平成27(2015)年度からの6か年の後期3年に該当する、平成30(2018)年度から平成32(2020)年度までです。

地域事業とは

麻布地区の実情や特有の課題、その解決の方策等を盛り込み、麻布地域の魅力を高めるために、3か年の年次計画を立て、重点的に取り組む事業です。



地方交流事業

自然や農業、伝統文化などを体験できる交流事業を実施することにより、児童の健全な育みを促すとともに他自治体への関心が深まる取組を実施します。

また、地域のイベントの際に特産品の販売を行うほか、交流事業実施時に現地児童との交流を図るなど、双方向の交流事業とします。

新たな自治体との交流事業については、「自治体間連携推進の基本的な考え方」に基づき、麻布地区との連携・交流が可能な自治体を調査し、交流事業を企画していきます。

地域サロン～ちょこっと立ち寄りカフェ～

高齢者が誰でも気軽に立ち寄り「ふれあい・憩い」と「いきがい・自己啓発」の場である地域サロンを実施するとともに、他の地域事業等と交流できる機会を設けることで、様々な世代の参加を促します。

また、事業周知の充実や運営に携わる地域ボランティアの養成も実施していきます。

麻布の魅力探訪事業～あざぶ達人ラボ～

麻布の歴史や文化などの魅力を伝える公開セミナーを、麻布図書館等と連携して開催します。

また、これまでのあざぶ達人倶楽部の講座修了者によるまち歩きの実施や、他の地域事業と連携して麻布の歴史を語る場を創出することで、区民等に対して麻布の魅力を学ぶ機会を提供していきます。



麻布地区版計画書はこちらから



港区ホームページ <http://www.city.minato.tokyo.jp/>

港区基本計画

検索

お問合せ / 麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当 電話 / 03-5114-8812

買い物するなら地元の商店街で

ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せください

住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電話 / 03-5114-8812 ●FAX / 03-3583-3782

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからもご覧いただけます。



「ザ・AZABU」は英語版も発行しています。

ザ・AZABU

●配布設置場所のご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番、赤羽橋の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉の各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief 田中亜紀
Sub Chief 高柳由紀子
Staff 出石供子 田岡恵美
おおばまりか 田中康寛
大村公美子 西森瑞穂
加生武秀 畑中みな子
加生美佐保 堀内明子
小池澄枝 堀内實三
佐伯 舞

編集後記

「麻布びと」久國神社の宮司・鈴木つね子さんの取材に初めて同行させていただきました。モダンなお着物で、静かにご自身の半生と、ご苦労された事など、淡々と話されるお姿は、まさに昭和の女性の強さと優しさを感じ、男尊女卑の時代に、女宮司としてのご苦労話には心を打たれ、また宮内庁に奉職された時の同僚だったご主人と微笑ましい二人三脚のお話など、素晴らしい女性にお会い出来た幸せを感じながら取材を終えました。

(堀内實三)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。年中無休/午前7:00～午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話 / 03-5472-3710 FAX / 03-5777-8752

お問合せフォーム / <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form.html>

“Minato Call” information service
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752;
Inquiry submission form: <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form-inquiry.html>